

## TOPIC 1 | 窓の性能表示制度が見直しへ

資源エネルギー庁の「総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会 省エネルギー小委員会 建築材料等判断基準ワーキンググループ」が、省エネ建材等級区分を開口部基準の熱貫流率で4つに区分し、断熱性の高さを4つの★マークで表示する、窓の性能表示制度に関する報告書を取りまとめ、新たな表示制度を打ち出した。

今回の見直しは、JIS A 4706の改正や、窓の建材トップランナー制度の見直しを踏まえたもの。さらに、日射取得率についても、新たに表示する。

従来のJIS A 4706は、熱貫流率によりH-1～H-6の6段階の断熱性能が定められていたが、2021年2月に改訂され、

H-7(熱貫流率1.5W/(㎡・K))とH-8(同1.1W/(㎡・K))という断熱性能の上位等級が設定された。この改定にあわせ、新たに評価区分を6つの★で評価する。新たな表示は、H-1～H-2を★、H-3～H-4を★★、H-5を★★★、H-6を★★★★★、H-7を★★★★★★、H-8を★★★★★★★とする。

日射熱取得率も、JIS A 4706の改訂に伴うもの。JISの改定で新たに設けられた日射熱取得率についての等級N1～N3に対応するマークを表示し、対応する等級に色をつけたうえで、日射熱取得率の数値を記載する。

ラベルについては、上下に並べるもの、左右に並べるものの2通りのいずれを用いても可とした。

## TOPIC 2 | 省エネ改修に新型ローン、ZEH水準で金利引き下げも

(独)住宅金融支援機構が、今年10月から新たに一定の省エネリフォームに対する全期間固定金利のリフォーム融資である「グリーンリフォームローン」の取り扱いを開始する。さらに、断熱改修を行うことでZEH水準を満たすリフォームは「グリーンリフォームローンS」として、金利を引き下げる。

対象となる住宅は、自ら居住する住宅、セカンドハウスまたは親族が居住するための住宅。融資額は最大500万円(10万円以上、1万円単位)。詳細については9月上旬をめどに発表される予定だが、対象のイメージは右図の通り。また、これら省エネリフォームとあわせて行うその他のリフォームも融資の対象となる。

返済期間は10年以内(1年以上、1年単位)、金利は、全期間固定金利で、申し込み時点の金利が適用される。

今回の新リフォームローンの取り扱い開始は、先の国会での「脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネ

### グリーンリフォームローンの対象

グリーンリフォームローン ①または②のいずれかの工事を実施すること

- ①断熱改修 住宅内の外気に接する開口部、壁、天井またはいずれかの部位  
工事要件：A～ウのいずれか  
・アリフォーム後の住宅全体の断熱性能が省エネ基準（断熱等性能等級4相当）を満たす工事  
・イ 工事箇所が省エネ基準（仕様基準）を満たす工事  
・ウ 壁、天井または床の断熱材の使用量の合計が一定量以上ある工事

#### ②省エネ設備

太陽光発電、太陽熱利用設備、高断熱浴槽、高効率給湯器、またはコージェネレーション設備のいずれかの設備を設置する工事

グリーンリフォームローンS ①または②のいずれかの工事を実施すること

- ①住宅内の外気に接する開口部、壁、天井または床のいずれかの工事  
工事要件：リフォーム後の住宅全体の断熱性能がZEH水準（断熱等性能等級5相当）を満たす工事
- ②区画に面するa及びbの部位  
a すべての外気に接する開口部  
b 外気に接する壁、床または天井のいずれかの部位  
工事要件：工事箇所がZEH水準（仕様基準）を満たす工事

ルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律案」の可決、成立に伴うもの。この中の独立行政法人住宅金融支援機構法の改正で、住宅の省エネ性向上を目的とするリフォームへの資金貸付けが可能になった。

今知りたい情報がここにある  
住生活産業のための  
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online  
ハウジングトリビューン オンライン プレミアム  
https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/